

祈日月

KIHITSUKI



–太陽と月が交わる夜明けの光を世界へ紡ぐ祈りの舞–

祈日月

思い出せ 懐かしき鼓動を

生み出せ 明日の礎を

愛の源から私たちは産まれ
長い長い旅に出た

時も重さもない故郷から

知りたいと堪らなく望んだこの世界へ

思い出せ 懐かしき鼓動を

生み出せ 明日の礎を

勇敢な魂は忘却を恐れず
創造と叡智を携えて再び源へと還るその日まで

いつかすべてを忘れてしまっても
また必ず出会えると信じて

紡ごう 愛を
歌おう いのちを
踊ろう 魂を

日月交わる目覚めの舞が
内なる力への気付きを導く



月と日が交わる夜明けの国 日本から
子供たちが「この星に生まれてよかったです」
そう思える世界の為に
天と地を繋ぐ祈りの舞で
全ての人の内なる力を目覚めに導くプロジェクト

発足日 : 2024年5月5日

発足地 : 京都府京丹後市

懐かしき明日への鼓動

2021年5月10日、生まれて初めて丹後半島へ足を踏み入れた私は、まだこの国に“日本”があったのかと衝撃を受けました。そこから京丹後市で過ごした3日間を、一生忘れることはできません。

日本では古くから和の心が大切にされてきました。一説によれば日本は太古の時代、世界中の人々が太陽の昇る場所と豊かな湧き水を目指すと辿り着く聖地であったといいます。

そういった歴史的背景もあってか、日本では土着の思想を重んじながらも他文化を尊重し受け入れ、学び、独自のものに昇華し発展させてきました。まさに日本は、調和の国なのです。

そしてその多様な文化を受け入れる器となったのは、まさに京丹後市でこの土地、そこに住む人々から感じた、“自然に対する畏敬の念”であったと感じています。母なる大地の前では、傷付け合うことも取り合うこともない、それは自然なことではないでしょうか。

それでも未だに世界では戦争、迫害、自死、いじめ、差別…、日々悲しい出来事が起き続けています。今こそ世界にとって、日本人が太古から大切にしてきた調和の心が必要だと強く感じています。

私たちはみな国籍も言語も年齢も立場も関係なく、宇宙の、地球の、自然の子供たちである。遠いご先祖様から紡がれてきたそんな感性を舞の力で世界中に紡ぐ新たな挑戦をスタートさせます。

また祈日月では舞の力を冷静な視点と専門的な知見から多角的に観察分析し文章や記録に残し、天と地を繋ぐ芸術の場では実際何が起きているのか…、古代祭祀において巫女に審神者がいたように、知見者が表現者のメンターとなりより深く日本芸術の可能性を紐解いてくれます。

生のパフォーマンスはその場、その瞬間でしか感じられません。しかし後世に残る様々な視点からの資料があれば私たちが旅立った後も、きっと未来の子供たちがそれをヒントに新たな可能性の扉を開いてくれるでしょう。

東経 135 度最北地であり、神秘的な歴史を持つ京丹後市を出発点に、『子供達がこの星に生まれてよかったです明日を』というモットーが届くよう願いを込めて5月5日の子供の日をスタートとさせていただきました。

愛に溢れた和の心を世界へ紡ぐため、ぜひ応援いただければ幸いです。

祈日月 主宰 凜